

もっと住みやすい まちにするために

かすが市民懇話会 第3期会員 活動報告書

平成20年7月24日



はじめに

「春日市が大好き」、「その大好きな春日市をもっと良くしたい」、「そしてもっと住みやすい町にしたい」という熱い想いを胸に、市民公募及び団体推薦から選ばれた30名がそれぞれの立場や経験から色々なテーマについて、意見や考えを前向きに討論した2年間でした。

本年度は、第1期・第2期の懇話会で掲げられたテーマをまとめ整理し「もっと住みやすい町にするために」と言う、年間のテーマを決めました。

その大テーマの下、「子どもたちや高齢者が住みやすい町にするために」、「住んでみたい町にするために(PR)」、「住みやすくするための、モラル・ルールづくり」、「春日市の強み・弱みについて」を各開催日の中テーマにし、それぞれの中テーマをさらに、三つの小テーマに分け、各グループで話し合いました。

各テーマの下、様々な意見や想いが出ましたが、その中の他愛も無い一言や発言がその人の思いや、そのテーマをも越え、何らかの形で行政の役に立てていただければ幸いです。

ここに第19回～第24回(平成19年7月～平成20年6月)までの1年間の、かすが市民懇話会会議録をまとめました。本年度より、会の趣旨や基本的な活動内容を踏まえ「提案書」改め、「活動報告書」とさせていただきます。

又、討論ばかりではなく懇話会を通して、男女共同参画講演会や教育長の講和なども開催され、大変勉強にもなりました。

このような場を作っていただき、お忙しい中、毎回出席賜りました井上市長はじめ行政の方々には感謝の念に堪えません。

最後に、会長とは名ばかりの若輩者の私を支え、会を盛り上げていただきました、塚本・山田両副会長はじめとする会員の方々、また、この会の諸先輩方々に、この場をお借りしまして、心より感謝申し上げます。

平成20年7月

かすが市民懇話会
平成19年度会長 中村 一登



かすが市民懇話会活動報告書 もくじ

1	かすが市民懇話会の概要	1
2	第3期会員からのメッセージ	2

【資料編】

・	かすが市民懇話会会議録	16
・	かすが市民懇話会会員名簿	50

かすが市民懇話会の概要

(1) 設置目的

『かすが市民懇話会要綱』第1条により、設置目的は次のとおりです。

行政への市民参画の機会の拡大を図り、市民の率直な意見を行政施策に生かし、市民と行政との協働による市政運営を一層推進していく必要があるため、かすが市民懇話会を設置する。

(2) 基本的な活動内容

私たちは、かすが市民懇話会を「春日市をもっと住みやすくするために、市民の視点で捉えた市の課題を行政と協働して解決していくための方策を話し合う場」と捉え、『かすが市民懇話会要綱』第2条により、次の活動を行いました。

- ・ 市の重要課題や施策に関する意見交換及び提言
- ・ 市政の運営に関する調査及び研究
- ・ その他懇話会の設置目的を達成するために必要な活動

また、同要綱に、私たちの活動に対する市行政の対応は、次の通り規定されており、懇話会の活動に際しての庶務は、行政管理課が行うとされています。

市長は、提案された事項については、市政の運営に生かしていくよう努める。

(3) 平成19年度の懇話会の活動


< 討議テーマ >

- 第21回 子どもたちや高齢者が住みやすいまちにするために
- 第22回 住んでみたいまちにするために
- 第23回 住みやすくするためのモラル・ルールづくり
- 第24回 春日市の強み・弱みについて

< 運営方法 >

グループ討議を行い、最後に意見の発表を行いました。

※ 討議内容については、資料編の「かすが市民懇話会会議録」を参照。



～春日市をもっと住みよいまちにするために～

かすが市民懇話会

第3期会員からの

メッセージ (50音順)

2年間を振り返って

団体推薦で2年間「市民懇話会」に参加し、始めは何を話し合い、話をどう進めていくのかと疑問ばかりでしたが、先に終了された諸先輩のレポート等を読ませて頂き、回を重ねる毎にその方向性と目的が明確になり、自分の考えを素直に話すことが出来るようになりました。

私は平成8年4月から5年6ヶ月間、市の臨時職員として勤務させて頂きましたが、民間企業から市政業務に携わり、業務処理面や考え方について、行政市政とはこんなものかと感じていましたが、この懇話会、市長の出前トークへの出席で、市政が市民の声を取り入れ、春日市をよりよい市へとの方考え方への変貌に本当に驚きでした。

しかし、現実的にこの市長の声が市政へどれだけ反映されているかを確認できなかったことで、一部消化不良の面もありました。

人それぞれにいろんな考え方、見方があることは分かってはいましたが、この懇話会の話し合いの中で「地域づくり」「人づくり」について多くのヒントが得られた気がいたしました。

現在私は地区の福祉推進員、老人クラブ、環境推進員、社会福祉協議会の移送ボランティア等々に携わっていますが、今後も体力の続く限り、よりよい春日市づくりのために頑張りたいと思っています。

「市民懇話会」も第4期、第5期と継続されていくことと思いますが、どうか真に市政のカンフル剤的な存在となり、自由な発想のもと、健全な歩みと発展を3期生の一人として御期待申し上げます。

2年間を振り返って

団体推薦として第3期かすが市民懇話会に参加させていただきました。後半の1年間は日程が重なり、欠席が増えたことを申し訳なく思っています。

1 自らの生き方を振り返る場になった

テーマとなった春日市を住みやすくするためにどうあるべきかを議論する際に、まずは身の回りの環境や福祉、地域の活動などの実態を知ることが出来たのと同時に、自らはどう関わっているのかを客観的に分析することができ、自分のこれまでの生き方について見つめなおす機会になりました。

2 春日市の施策や現状について勉強の場になった

懇話会の中で春日市の教育施策、春日市地域福祉計画、循環型都市づくり行動計画など市の施策について改めて説明を聞くことができました。

また「地区福祉力簡易評価スケール」などの手法で、自分の住む地域の福祉度の分析なども行ったりして、自分が住む地域についての福祉の現状と、自分がどう関わっているのかの分析など、生きた勉強の機会になりました。

3 懇話会で多くの人の意見を聞くことができた

さまざまなテーマについてグループごとに話し合い、結果をグループごとに報告しあい、意見交換を通じて、一つのテーマでもたくさんの思いや考え方があることを改めて感じました。

また事前のアンケートや事後の議事録送付などにより、欠席者も等しく発言や内容を知る機会が与えられ、運営も公平で民主的、市長も毎回出席され、懇話会の議論への期待感を感じました。

4 多くの人々に市政への関心と自分の住むまちへの関心を持って欲しい

地域での活動やまちづくりへの活動参加を通して感じるのは、市民は市政や行政への関心はいまひとつ高くなく、また、まちの住環境の良し悪しは住んでいる住民の行動に関連があることに、無関心な人がまだ多いように感じます。

市政や行政に少し関心を持ち、自分たちが住む地域の現状にも少し目を向けて、自己中心でなく、まちのために少し行動する人が少しでも増えて欲しい、そのために行政も懇話会もさらに頑張ってもらいたい、そんな思いを改めて感じた2年間でした。

2年間を振り返って

第3期会員として松崎さんから誘われて背中を押されて参加させていただきました「市民懇話会」。

この期間、さまざまな課題についての自由な発言、市政に関心と熱意を持ち、又、幅広い活動や体験を有する会員の皆さんからの情報や知識などを学ぶ事が多々ございました。行政側の課題に対するご説明やご苦勞についても理解を深める事が出来、今までにも増して市政に関心を持つことが出来ました。この様な機会をいただいた事に感謝の気持ちで一杯です。

又、地域に持ち帰り地域活動に少しでも繋げる事が出来ればと思っています。

討議の中で特に気になる点として心に残っていますのが、今現在大きな社会問題化している青少年犯罪が市民の安心、安全を著しく脅かしており、今後益々エスカレートしていくのではないかと大きな不安を覚えます。明るく住みやすい町づくりを目指して、もう一度、原点に立ち返り、見直す事が必要ではないでしょうか。又、防犯防災体制の充実について、避難所の周知、高齢者、要介護者、障がい者の災害発生時の支援や連絡網の確立など重要かつ急務ではないでしょうか。

まだまだ、討議し、市政に反映すべき課題も多くみられると思われまます。

今後の市民懇話会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。2年間大変お世話になり、ありがとうございました。

2年間を振り返って

市民懇話会会員として参加し、2期2年楽しい会議の中にも春日市愛とでもいいでしょうか、郷土の愛でしょうか、強い意見と期待感溢れる言葉で、明日の春日を夢とした、或る時は強く、或る時は、遠まわしで、親しく、その表現は人により強く、或は弱く、その集められたものは、まとめ役の人が一文として整然とまとめてくれましたので、大略一つの問題点として発表の言葉となり、集まって多く市に提供する意見となりましたので、一応毎回勇んで出席いたしました。

行政から見れば当然把握されている事が、殆どと思われる面が多い様な気がいたしますものの、色々各界各層の人が在席の中で発する思い思いの意見であるため、よい意見と思っていることが陳腐なものであったり、それでも市当局としては、何でもよい気の付いたこと何でも、よい町づくりのためといわざるを得ない面があると存じました。更なる人、運営の方法、市行政との方向付、話合、意見の用い方等々につき、そんな一ランクの機関がほしいと存じますが、如何なものでしょうか。今後について宜しく。

2年間を振り返って

私は民間企業で、今まで行政に携わる事なく過ごしてきました。
今回、障害者福祉団体より参加して、人は十人十色で生活環境が異なっても「春日市で住みやすく・良くしたい」という思いは、同じだと感じました。春日市民が行政に一人でも多く参加できるよう、自治会等の連携で対話を進めて、老人から子供達まで安心して暮らせる、市民と行政との信頼関係を作り「マナー」をもってお互いがパートナーとしての町づくりを進めて、「融和・安らぎと健康」のある共存共栄の春日市でありたいです。

懇話会に参加して地域にも溶け込み、市民の一人として、住んでいる地域の皆さんと一緒に参加していきたいです。

2年間を振り返って

5月21日の第24回かすが市民懇話会に参加し、第3期生の卒業となりました。教育・ゴミ・防犯防災・男女共同参画・自治会など多岐にわたり、各分野に精通した会員、積極的に行動している会員など、すばらしい人達と出会え、活発に意見交換ができ、とてもよい経験でした。

行政からも現場の職員の方の講演など春日市の現状を知る事ができました。

熱心な話合の中から問題点や解決策のヒントが出たりと毎回は勉強の場となりました。

安心して暮らせる春日市となるよう向こう三軒両隣の間関係の基本を大切にして、地域で活動を続けていこうと思っています。貴重な2年間となりました。ありがとうございました。

2年間を振り返って

私は、かすが市民懇話会設立当初から、2期（1期生・3期生として）携わらせて頂き、振り返りますとあっという間の4年間であり、且つ充実した4年間でもありました。

今まで私は、主に子どもたちの健全育成に携わってまいりましたが、この懇話会を通じて色々な方面で活躍されている多くの方々と知り合い、交えながら活動を進めていく中で、それぞれの立場や、豊富な経験の基、色々な角度からの意見を拝聴し自分に置き換え学ぶことの多い4年間でした。

この4年間で同じ様なテーマの提案もありましたが、メンバーが代わる毎に、当然ながら色々な違った意見が出てき、変化ある中で勉強になりました。

この懇話会で特に私が学び考えさせられたことは、「自助の大切さ」、「大人としての責任」、「あいさつの大切さ」です。

- ・ 自助の大切さ・・・概ね、市民は公助を求めがちですが、まずは我々市民が個々に出来ることを考え、無駄な公助を無くし、その分必要な箇所に当てる。
- ・ 大人としての責任・・・よく、「今の子どもたちは…」と言う言葉をよく聞くが、我々大人が子どもたちに対して、「今の時代、このくらいは…」と、小さな妥協をしているのではないか。まずは、大人が襟を正し、その姿を見せ是非を示さなければならぬ。
- ・ あいさつの大切さ・・・「あいさつ」は大切なもの、しかし中々出来ない。「あいさつ」は自分のために行い、相手にそれを求めない。又、市民それぞれが、安心してあいさつや会話が出来る環境づくりは、住みよい町につながる。

改めてみると、どれもがよく言われていることで基本的なことです。ここで原点を見つめ直し、一つ一つ実践していくことが大切ではないでしょうか。

まだまだ学んだことは、たくさんありますが、私はやはり「弱者が住みよい町（子どもやお年寄り）は、誰もが安心して住める町」ではないかと感じました。

最後に、懇話会の方々を見て、これだけ熱心に春日市の事を愛する方々がいる限り、春日市がより一層、住みよい町になることを確信いたしました。

2年間を振り返って

この2年間市民懇話会の皆様と、春日市への思いと願いを真剣に話し合いました。私は十分に話しができないで終わりましたが、市民の皆様が少しでも同じ考えであればと… それには各々の集まりにリーダー的な方が2~3人おられるといい町づくりが出来ると思います。(例えば、3期中村会長の様に)

1月22日にサークル討論の中で、今は飽食の時代で何不自由のない生活ですが、昔に返り、何もない、火も電気、水もない生活を体験させたらどうかと意見が出ました。そこで、息子達にききますと「それは罰当番たい」と返事が来ました。物のあるのが当たり前の時代、そのように考えるのかと苦笑いしました。これからは、少しでも地産地消に努力して行きたいものです。

また、高齢者の方は長年培った経験と知恵を生かしてどこにでも参加してほしいと思います。私も今後出番の時はためらわず、参加致します。

5月21日には、山本教育長の教育方針を拝聴して安心しました。私達の子育て時代は高度成長の時代で忙しいばかりでした。子供の躰も行き届いていなかったと反省します。毎日の挨拶、ありがとう、ごめんなさいの基本的なものが欠けているようです。

子供は無限の可能性を持っています。たくさんの経験と、人との出会いのすばらしさを感じる人になってほしい。そして、すべての感謝の出来る人に。

私も今年74歳になりますが、まず子供、孫の成長にあと踏ん張りして、がんばりたいと思っております。

この2年間、市長様始め職員の皆様には丁寧に対応して戴きありがとうございます。お世話になりました。

2年間を振り返って

私はかすが市民懇話会創設当初の第1期（平成16年6月）からの会員で、2期4年間を務めさせていただきました。振り返るとあっという間でした。

私は、勤務の都合で昭和の終わりの頃に須玖に9年間住んだことがあり、8年前に15年振りに福岡で仕事をする事になり何一つ迷うことなく、この春日市を選んで住まいを構えました。

第1期会員から4年間「かすが市民懇話会」に参加し、市長さん、行政管理担当の方々の行政上の諸施策を拝聴する機会とすると同時に、住みやすいまちづくりのために少しでもお役に立つべく、意見交流に加わり、他の会員の方々と屈託のない自由な討議をして参りました。

春日市は、元々地形的な自然環境に恵まれ、災害要因も極めて少ないという好条件下にあり、これをうまく利用して多分奴国以前から今日までの住民が住環境を整え、伝統的に住みやすい社会環境を築き上げてきたまちであり、井上市政は近年における社会の急速な変化や福岡市のベッドタウン化（都市化）を背景にして春日市の良さを継承、保持しつつ、一段と健全な発展を続けさせようと、真に市民を取り巻いて懸命にご努力中だと強く感じております。

この4年間の会において採り上げられたテーマの中で、例えば、「行政のさまざまな情報を市民にわかりやすく正確に伝えるための伝達方法」としての「市報」があらゆる面で改善され見違える程に生まれ変わり、市のホームページも充実し内容が豊富になったし、防犯、ごみ、教育等における市民の自主的な地域活動が大変盛り上がり定着し、全国的に誇れるまでになったのではないかと思います。同様の改善事例は他のテーマでも少なくありません。会員の一人として喜びにたえません。

最後に、ご参考までに、4年間の提言のなかで意見を尽くす機会がなかった事項としては、例えば、集合住宅住民（要転勤者）の自治会活動参加問題（対策案）、向三軒両隣活動（システム創り）の推進、青年会組織化と活動、「歴史の春日（日本のかすが）」の宣伝強化、全住民の防犯防災用笛携帯の励行、小・中学生の携帯電話使用の最適化（機能の限定）、救急車サイレン音の訪問宅周辺での消音（患者への配慮）、自衛隊、九州大学の活用（医療、防災防犯、特殊教育等）、新幹線開通後の健全な地域発展（基地周辺のまちづくり）等々があったことを付記し、今後春日市が一層住みやすいまちとなることを切望いたします。 以上

2年間を振り返って

かすが市民懇話会へ参加された方々の考え方、思いなどを知り、喜びを感じました。自分以外の人への思いが、この懇話会にはありました。今までは、自治会、教育、福祉、環境、行政、隣組などの問題、全てを思いやる気持ちが薄いから、いろいろな課題があるのだと感じていました。

しかし、この懇話会で、色々な課題を基に会話をした事は、春日市にとってより良い話の宝庫であり、この取り組みは素晴らしいと思いました。ただ、その反面、どう生かしているのだろう、市民が、市民の為に何かを！！と思っている人の気持ちはどう反映されているのだろうと思った事も事実です。計画や文面だけでは、人は動きません。目線を市民の課題まで降ろして欲しいと願います。

自助・共助・公助とは結局、人ですから、見えてないだけでその人々はいるのです。その人々を見つける、そして大切にすることを始めることが大事だと思います。瞳で春日市を見て、たくさんの仲間を作って、春日市をより良い町にしていって欲しいと思います。そして私も、人の為に、自分の為に、心の瞳を開いて「困った」「助けて」を見つけ、何とかしたいと思っていますし、春日市をより良い町にするお手伝いをしていきたいと思っています。

2年間を振り返って

第3期市民懇話会のメンバーとなり、2年間の活動を通じて春日市民の一員として、私自身の生活の中で大変貴重な体験をさせていただきました。

サラリーマン生活を終えて、市や地域活動や町内活動にやや疎かったわけですが、この2年間でいろいろな事を学び、意見交換や情報を仕入れた事が、自分の感性を広げただけでなく、これからの私生活や地域活動をしてゆく中で、大いに役立つものと確信しております。

只単に、春日市を良くするのだ、環境や地域やいろいろな課題を改善して行くのだと思うだけでなく、多くの人達に十分に情報が伝わらない(知りえない)事に対して、少しでもその役割を担える事が出来るのではないのでしょうか。

市長を始め、各部門の担当者の積極的な取り組みが、この会や出前トーク等によって、行政と市民の双方の意見交換が進み、よりよい市(民)が創りあげられていくのだと思います。

これからの社会生活は大変厳しいものが予想されますが、いろいろな層(年代・職業・地域等)の人達が集い、意見を出し合い、直ぐに成果が出るもの、時間をかけて進めるもの等がありますが、多くの方々が係わりをもつ事が、又大いに意義深いものがあるのではないのでしょうか。

今後の益々のご発展をお祈り致します。

2年間を振り返って

『男女共同参画審議会』のメンバーとして、二年間共に机を並べた K さんから、「楽しい会だから応募してみない」と誘われたのがきっかけで、つたない文章で市民懇話会の三期生として応募したのが二年前。おそらく K さんからの推薦もあって私がこの会のメンバーの一人として選ばれたのではないかと考えておりますが、楽しい二年間を過ごさせていただきました。

二年間の反省として、十分な準備ができないまま会に臨んだことがほとんどであったこと、また 12 回の会合の全てに出席できなかったことが挙げられます。メンバーの多くがそれぞれの道での素晴らしいお考えをお持ちの方々であり、その方々の発言の重みというものを感じながら、大した考えもなく会に出席している自分の軽さを思い知らされながらも、自分の知らなかったことを勉強できましたことは、今後の地域社会での働きにきっと役立てうると確信しながら、勤務先のある糸島の地から市役所に駆けつけるのが毎回の楽しみでした。

会全体の反省点としましては、30 名前後のメンバーがいるはずなのに全員が揃ったのは初回位という寂しさ。特にこの 1 年はこの傾向が顕著だった気がします。原因は何なのか。メンバー構成に原因があるならば、市民公募会員と各種団体推薦委員との構成比を考える必要があるのではないのでしょうか。義理で出席するメンバーは必要ないのではと考えさせられています。

最後に、二年間末席を汚させていただきましたことを感謝いたしますとともに、この会が今後ますます発展しますことをお祈りいたしております。

2年間を振り返って

私は最近、「歳をとったな〜。」とよく感じることがあります。それは、昔のことを思い出す回数が明らかに増えてきたからです。

春日市（町）で生まれ、春日市で育ち、現在に至るまでのほとんどの時をここ春日市で過ごしている私にとって、私が生まれた昭和30年代は、まだ家の周りには田んぼや畑や林などの自然が多く、毎日外で近所の仲間達とドロドロになるまで野山を駆け回り遊んでいました。大人たちも貧しいながらもいきいきと元気で、人と人が普通に助け合い支え合いながら生きている姿がそこにはありました。現代は確かに、経済的・物質的には豊かになり生活も便利にはなりましたが、それと引き換えに一番大事な「心の豊かさ」「人と人とのぬくもり」「人と人との絆」を失いつつあると感じます。

それを取り戻す特效薬はなかなか見つかりませんが、現代社会に合った新たな連帯や絆をあきらめず地道に作りあげていくしかないと思いますし、それぞれの分野や一市民としての立場で、熱い想いをもって春日市のことを考え活動されている多くの方々がいることも、この市民懇話会によって再認識させていただきました。（まだまだ捨てたもんじゃないぞ！）

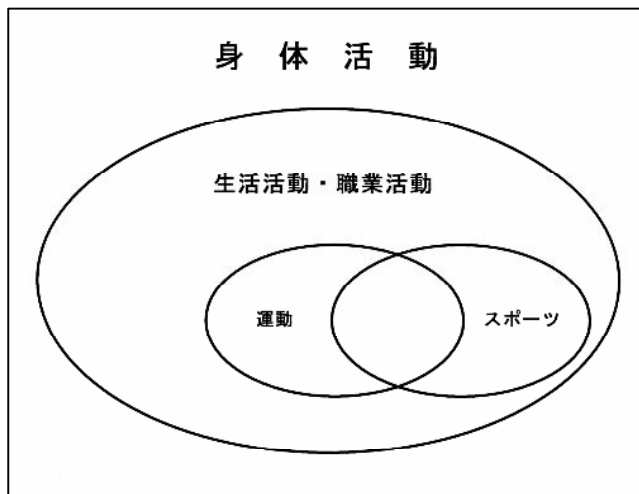
私も社会福祉協議会の職員として、また、一市民として私の故郷^{ふるさと}であり大好きな春日市が、もっともっと誰にとっても暮らしやすいまちとなるようにがんばってまいります。

最後に、たいへんお忙しい中、毎回最後までご出席くださいました井上市長と事務局を担っていただきました行政管理課のみなさんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

2年間を振り返って

「子どもたちの体力低下」、「メタボリックシンドローム」、「認知症」、「寝たきり」。これらは、ある変化がからだに起こった結果を表現している言葉です。あくまでも原因ではなく結果です。これらの言葉の全てに共通しているのは、いわゆる「運動不足」。少し専門的な言葉を使えば「身体活動」の不足です。

「身体活動」とは、安静にしている状態より多くのエネルギーを消費する全ての活動のことをいいます。この身体活動には、体力の維持・向上を目的として計画的・意図的に行われるいわゆる「運動」と「スポーツ」、それに「生活活動・職業活動」などから構成されています。



問題は、身体活動の不足の結果として、子どもたちの体力が落ち、大人たちがメタボリックになり、高齢者が認知症や寝たきりに陥っているということです。

したがって、必要なことは、いかにして子どもから高齢者まで、身体活動不足にならないようにするかです。現在は、運動する機会やスポーツをする機会を増やすための工夫が、いろいろと考えられていますが、場所や時間、

労力、お金等を考えていくと、おのずとそれらには限界が見えてきます。

そこで、ゆっくり上の図を見ていただきたいのですが、1日の生活の中で最も時間的に多く、毎日誰でも必ず行っている活動である生活活動・職業活動を見直すことの重要性です。総務省の統計では、運動やスポーツ活動を行っている人は、だんだん増えているようですが、現実には体力低下・肥満・寝たきり老人等が明らかに増えています。その原因は、日常生活や仕事における身体活動量が、驚くほど少なくなった結果だといえます。

したがって、春日市でも民・官一体となって、スポーツクラブも体育協会も学校も健康福祉部も地域生活部も都市整備部も学校教育部も社会教育部も、お互い協力して、結果として市民の身体活動量が気がつかないうちに増えていくようなしくみづくり、環境づくりを、是非、進めていただきたいと考えています。運動する人を増やしても良し、スポーツをする人を増やしても良し、生活活動や職業活動を工夫して身体活動量を確保する人を増やしても良し。特に、生活活動においてからだを積極的に動かすことは、CO₂排出量の低減にもつながるのではないのでしょうか。

●「1に運動、2に食事、3、しっかり禁煙、最後にクスリ」



資料編

○かすが市民懇話会会議録 (抜粋)

第19回	16
第20回	17
第21回	22
第22回	28
第23回	34
第24回	39



○かすが市民懇話会会員名簿

第 19 回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成 19 年 8 月 1 日（水）
- 2 時 間 19：00～21：00
- 3 会 場 春日市役所 大会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員 19 名
春日市長、行政管理室長、行政管理課長、行政管理担当係長、
事務局（行政管理担当）

〔欠席〕：大石昭子、大野信孝、古賀敬之、西村康子、古川秀樹、堀ノ内陽子
水野多津世、宮崎明、森山善彦、渡辺昌代

5 会議の内容

- (1) かすが市民懇話会第 4 期会員依頼書交付
- (2) 市長あいさつ
- (3) 会員自己紹介
- (4) かすが市民懇話会概要説明
- (5) かすが市民懇話会役員互選

かすが市民懇話会要綱第 4 条の規定に基づき、会長及び副会長の互選を行ったが、決定には至らなかったため、次回会議において再度、会長及び副会長の互選を行う。

(6) 活動方針協議

会長、副会長を選任できなかったため、中村一登氏（議長）、福富幹男氏（副議長）に司会進行をお願いする。

ア 開催日程、時間帯について

奇数月の中旬頃（市長が出席可能な日）、平日の 19 時から開催する。

イ テーマの設定について

テーマの設定は懇話会の運営上、非常に重要であるため、次回会議をテーマ設定のため会議とする。

事務局は自己紹介カードからテーマを分野ごとに集約し、事前に会員に対し資料を提供する。

- (7) 市長あいさつ
- (8) 閉会

第 20 回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成 19 年 9 月 20 日 (木)
- 2 時 間 19 : 05 ~ 20 : 45
- 3 会 場 春日市役所 大会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員 20 名
春日市長、行政管理室長、行政管理課長、行政管理担当係長、
事務局 (行政管理担当)
〔欠席〕 : 大野 信孝、古川 秀樹、堀ノ内 陽子、宮崎 明、森山 善彦、
吉弘 幸三、川田 絵美、森 俊子、渡辺昌代
- 5 会議の内容
 - (1) 市長あいさつ
 - (2) かすが市民懇話会第 4 期会員依頼書交付
 - (3) かすが市民懇話会役員互選
立候補なし
事務局推薦 会長 中村 一登、副会長 塚本 幸弘 承認
(意見) 男女共同参画の趣旨から、女性副会長を事務局で探してください。
 - (4) 活動方針協議 (今後の懇話会の進め方)
 - (5) 市長あいさつ
 - (6) 閉会

活動方針協議 討議のまとめ

懇話会とは

「誰が」 ・ 「市のために」という純粋な気持ちを持った人
(専門的な、知識や情報を持っていても)

- ・ 専門ではないが、そういうことも勉強してみようという感覚

【市】考え方もまちまちであろうと思いますが、個々にそれぞれ懇話会でこういったことを市に提言したいとか、問題意識や目的意識を持ってご参加いただいている。

「なぜ」 ・ より素晴らしい春日市にするために提案できていったらいいな。
・ 市の長や職員の人が聞いて、これは放っとけないと思えば、きっと解決策に持っていってくれる。
・ 第三者的な発言が、専門家ばかりの意見ではなくて、それが斬新な意見になって発展していく(そういうことも、市長初め行政が期待している。)

【市】「ここをこうすれば、もっと良くなるのではないか」「ここをあらためるべきだ」「こういう所はいい」といった市民の目から見た、率直な意見を市政に反映させ、対応できるものは積極的に取り組む。

「なにを」(どのようなテーマを) テーマの提案

- ・ 毎年同じような内容で話し合い、同じような考え方、また提案で3年間の話合った、その蓄積から。

私たちが出す提案のテーマは似かよっている。同じような問題点を持っている。改めて問題点を出すのではなく、行政がどういうことを期待しているか、どういう点を問題点として困っているか、というようにしてもらえれば、議論ができる。

- ・ 奴国からの歴史と「いい町ですよ」ということのPR
- ・ 倫理観念の希薄さ。社会倫理的な問題を100項目ぐらいのポイントを選んで啓発
- ・ 倫理問題に関わる話は「命を大切に子どもたちを育てるために」というテーマから始まる。私たちが子どもの時どうであったか、今の子どもたちの環境・生活ということも、もう少し見つめて、そこから、どういう風に子ども達に接触するか
- ・ 地域と近所、自治会が2本柱で、あと行政・教育・高齢者・環境・防災・ほかが全部リンクしている。地域・近所のことを柱としたテーマにしてもいいし、1本のテーマに絞ってもいい。

【市】会員の皆様たちのご意見で進めていただければ

「どのように」

① 運営の考え方

- ・ 「これまでこうだった」という固定観念にとらわれず、新しいやり方なども
- ・ 会長、副会長と行政で、決めてもらうといい。
- ・ その回のテーマや班編成などを会長等で決めるというのであれば、ある程度の話

を聞いておかないと、決めようがない。

【市】全体会議になるのか、グループ別になるのかは、もう1回この班はこれで行こうかとか、その時その時の状況で運営していただいたら。少なくともお一人1回は、提案（発言）していただく。お一人お一人のご意見をグループ毎に分けてでも、そのテーマは必ず協議していくという形にして実現。

② テーマ設定の方法

- ・ 市が期待する項目（具体的に改善ができそうなもの、費用等の問題で実施できないもの）を市の方で設定。
- ・ 行政からは、テーマを出して（発言を）縛るようなことはせずに、自由な懇話をして、その中から（出てきた意見を生かす）ということ。
- ・ 行政のテーマについては、それぞれ委員会にお任せすればいい。

【市】行政からテーマを決めずに、皆様で協議をされ、皆様方の方針で決定

- ・ 私たちの自己PRとともに、話し合ってみたいことを出しており、会長、副会長と行政で、（話し合っ）多いのを決めてもらうといい。

③会議の進め方

班編成 ・ グループ討議をしたいのか。

【事】話し合いをする時に、少人数だと、それぞれの発言の機会を多くすることができます。

- ・ グループに分かれないと、2時間の間に収まらない。
- ・ グループは、そのたびに所属する人が入れ替わる。（構成する）人が変わってグループを組むので、いろいろな意見が出てくる。そうしないと、大きなテーマで、何回も同じ人での話し合いでは、一部の人の意見がまとまるだけになる。他の人たちの考えがそこに入ってこなくなる。
- ・ 意見が同じ者がグループを作る。自分が持っている環境、それにあった同じテーマを持った人で、現実的な問題に即入っていききたい。
- ・ テーマを決めて、その時集まる。人数にばらつきがある時は強制的ではないが、移っていただく。

討議の仕方

- ・ 大きな一つのテーマを決めてそれぞれの班で話合う。テーマが継続する、しないに関わらず、同じテーマで議論しあって、意見を集約するという議論の仕方。それぞれ違うテーマで議論していったら、収束しにくい。
- ・ 班毎にテーマを設定して行う。
- ・ 年間を通して1テーマというのと会毎にテーマを設定する。
- ・ 希望があるので1テーマでは、出てこないという人も出てくると考えられる。
- ・ 議論が1回で終わることもあるし、3～4回も継続する内容もある。

スケジュール

- ・ 最初 15～20 分ぐらい、行政の中の専門家による話を聞いて、同じテーマで話して意見を出し合って、それを発表してまとめていく形がいい。

これまでの進め方

- ・ テーマは前回に選び、3～4 班に分けて討議、テーマはそれぞれ別。
班毎に、司会者、発表者、記録者を決めて、最後に時間を取って発表。これは、テーマは違っても、聞いたことが非常に役に立つ。
- ・ 一つのテーマを各班で話合いました。それぞれのグループが、テーマは一つでも、出てくる答えはそれぞれ違っていた。
- ・ グループのメンバーはそのたびに変わる。
- ・ 1つのテーマのときは、事前に決められたグループでいい。テーマが複数の時は、複数のグループで、好きなところに座る。テーマはその前に決まっていた。
- ・ 会長、副会長、役員と行政が集まって、ある程度方向性を見出して、テーマを決めた。推進員制度。会長、副会長と別に推進員を 6 名が、別の時に集まって、皆さんがこうしたいというものを集約して決めてきた。
- ・ 奇数月に懇話会があるので、偶数月に、会長、副会長が市役所に集まって、会長からの提案でテーマなどを決め、事前に郵送。それで、会員は、自分の考え方をまとめて、懇話会で発表した。各班、同じテーマでも、考え方が違うので、討議してきました。

④目標

- ・ 大きな問題が、具体的に目に見える形でできれば、やりがいができる
- ・ われわれが結論を出しても意味がない。市長並びに行政が、市政あるいは今後の長期展望をするヒントになればいい。こういう課題がある、ということを含んでくれれば十分である。この会の務め。
- ・ 私たちの学習、水平展開にはなる。
専門ではないが、そういうことも勉強してみよう

「いつ」

「どこで」

懇話会、及び市行政に期待するもの

- ・ 話を進めるために、このようなデータがほしいということがあれば、行政管理課で用意
- ・ ここに集まっている人でもこれだけのことができるのだから、市民 10 万人の中で力を合わせたら何でもできる。わが町を愛するなら、なんでもいいから目立たなくても、やりましょう。気持ちです。何か一つやられたら素晴らしい町になると思います。
- ・ 出前トークは、各地区毎の地元に関係のあることを出す。ところが、ここは、全 35 区の方がいるので、気がつかないようなことを出してもらおう。

参加の理由

- ・ 行政で何もしていないことをボランティアを通してやった成果を行政に返していくことで、現実のものになってきた。行政が受け皿として、そういう市民の活動に目を向けて、行政に取り込んでくれる力と共生というか、行政と市民の立場の近さがある。
- ・ 筑紫地区4市1町と比較したときに、行政は、満足しすぎている。
- ・ お金がない、人手がないというのを平然と言われる。同じ地盤に立った話し合いを
- ・ 行政に伝えても、返事が返ってこない。聞いてみると、予算がない、制約がある。
- ・ いろんな勉強をしたいと思って、参加させてもらった。

<行政管理担当から>

第19回、第20回の懇話会では、会員の皆様の熱い気持ちをまざまざと見せつけられ、私たち担当者は、このような市民の皆様と一緒に仕事ができる嬉しさを感じました。

会員の皆様にとっては、本来の協議に入れず、やきもきした、無駄な時間を過ごしたお気持ちであったかと思いますが、懇話会の意義や、あり方については、異口同音におっしゃられ、私達も改めて正しく認識することができました。

この2回の協議については、「産みの苦しみ」「雨降って、地固まる」「にがりを投ずる」といった言葉がありますが、今後の懇話会の運営にとって、非常に有意義なものと確信しております。

皆様のご認識のとおり、この会は、テーマの選定や会議の進め方といった全ての点について、会員の話し合いの中で自由に進めていただくという他に類を見ない形式の会になります。

前例がないという点では、方法等については、手探りの状態ではありますが、皆様の熱い気持ちが目的を達成していただいております、私達も準備や資料収集といったサポートの仕事ではありますが、精一杯務めてまいりたいと存じます。

第 21 回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成 19 年 11 月 22 日 (木)
- 2 時 間 19 : 00 ~ 21 : 00
- 3 会 場 春日市役所 大会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員 15 名
春日市長、行政管理室長、行政管理課長、行政管理担当係長、
事務局 (行政管理担当)
〔欠席〕伊藤 智幸、江口 泰子、大野 信孝、川田 絵美、古賀 敬之、
白水 房子、古川 秀樹、堀ノ内 陽子、水野 多津世、三室 日朗、宮崎
明、森山 善彦、吉弘 幸三、渡辺 昌代
- 5 会議の内容
 - (1) 会長あいさつ
 - (2) 市長あいさつ
 - (3) 役員互選
立候補なし
事務局推薦 副会長 山田 恵美 (承認)
 - (4) グループ討議 (ワークショップ)
もっと住みやすいまちにするために
11 月のテーマ『子どもたちや高齢者が住みやすいまちにするために』
 - 1 班 高齢者・障害者支援
 - 2 班 教育の充実
 - 3 班 子育て支援

(5) 討議内容発表（発表順に記載）

2班 班員 森 俊子（発表）、上野 直麻子、中村 一登、福富 幹男

教育の充実
大人の公共におけるモラルの低下
<ul style="list-style-type: none">・大人のモラルが低下している（子どもは大人の背を見て育つ）。・公衆の面前での化粧や食べ歩きなど、モラルの低下が危惧される。市としても、何らかの規制を設けて良いのではないか。
子どもの教育の問題
<ul style="list-style-type: none">・幼児から小学校低学年（3年生程度）までの教育が最重要であり、この期の担任に総合的に質の高い教諭・教員を配する必要がある。・小中学生の携帯電話の使用については、各種機能の利用制限が必要ではないか。
外部アドバイザー活用による学校支援
<ul style="list-style-type: none">・地域（校区）ごとに、教育問題に関する悩み相談所（教育相談所）を設けてみてはどうか。

※ 補足資料（福富さん作成）、別添。

1 班 班 員 片島 常雄 (発表)、梅原 幸、大石 昭子、川畑 純子、
篠原 比呂志、塚本 幸弘、長野 須美子、松尾 征也

高齢者・障害者支援

精神障害者支援 (授産施設設置、作業所支援)

- ・平成 18 年 4 月に施行された障害者自立支援法は、欠陥が多く、また予算が伴っていないため、作業所等の施設運営は財政的に厳しい実態にある。それを補うため、支援活動を行っている。
- ・精神障害者に対する偏見、差別が、まだまだ根強く残っている。NPO がそれらを取り除きながら、精神障害者が社会参加できるような活動をしているが、現実には、障害者の自立は非常に難しいものとなっているようだ。

独居高齢者に対する支援、保護

- ・個人情報保護のため、自治会では独居高齢者のチェック・管理体制が整備できない状況である。地域での活動事例として、組長会等で情報提供しながら自治会でどのように取り組んでいくのか、意見交換されている。
- ・老人会や福祉推進員会活動のふれあいサロンなどで声かけをしながら地域の高齢者の見守りをしているが、高齢者に面会を拒否されるケースもあり、現実的にはなかなか進んでいない。しかし、一方では顔見知りの民生委員やご近所の人たちが訪問すると、打ち解けてお話ができる。高齢者の見守り活動は続けていくことが重要である。

自治会のあり方 (高齢者対策、災害時連絡網、近隣対応)

- ・要支援者の安否を確認するための体制を整備する必要がある。自治会でマップを作ったり、担当を決めて声かけをするなど、もう一歩進んだ取り組みの検討が進められている。
- ・高齢者の中にも、自らの身は自ら守らなければならないと自覚している人が多数おり、それらの人たちは、緊急時、災害時に助けていただくために近隣の人たちとつながりを深め、地域にとけこんでいるようである。
- ・要支援者はこれからも増加していくと考えられるため、何らかの形で地域で見守る体制が必要である。支援組織の体制づくりが進んでいる地域もあるため、成功事例や実践報告等の情報を交換しあって、進めていく必要があるのではないか。
- ・春日市では、ひとり暮らしの高齢者や在宅重度身体障害者に対し、急病、災害時等の緊急時に安全確保のための連絡ができるよう、緊急通報装置を貸与しているが、該当者はこのような制度があることを知っているのだろうか。

子育て支援

子育て環境

- ・春日市は子育ての環境が整っており、児童館等の施設も多く、子ども達にやさしい町であると思う。

不登校・いじめ

- ・戦前は子ども同士でけったり、叩いたりするのは当たり前で、それぞれの問題は子どもが自分たちで解決していたが、今の子どもは自分達で問題を解決できない。また、昔は気にしなかったような些細なことが問題となっているようである。
- ・インターネット等で世界が広がったものの、学校でいじめられただけで自殺に直結してしまうような考え方とか、行動範囲、コミュニケーションの方法などが狭まってきたのではないか。

子どもを子どもらしく育てるための方策

- ・伝統の継承が必要ではないか。祖父母が孫に、近所のおじちゃん、おばちゃんが子ども達に昔の話をすることで、メディアで伝えることよりも子どもの心に残っていくのではないか。
- ・今の子ども達には、異年齢の人達とのかかわりが薄れてきている。ボーイスカウトなど異年齢の団体に子どもを参加させてみてはどうか。

子どもの早期からの発達支援

- ・昔に比べると、子育てが難しくなっているのではないか。
- ・幅広い支援をするためにはお金が必要である。スウェーデンなどでは手厚い保護がなされているが、消費税が25%であるとか税の負担が高いものとなっている。どちらを選ぶかは住民が考えていかなくてはいけない。春日市では全国の先駆けとなるような行動がとれれば良い。
- ・子育て経験者として支援したいが、現在の悩みで精一杯の状況であり、また自分が子育てしていた頃、どのような支援を必要としていたのか忘れてしまった。
- ・支援が欲しいと訴える人はいいが、なかなか自分から言い出せず困っている人を助けるのは非常に難しい。このような人達を助けるためには、きめ細かな対応を考えていくことが必要である。
- ・やって見せ 言って聞かせて させてみて ほめてやらねば 人は動かじ これを実践できるリーダーを養成することが大切ではないか。

(6) 市長あいさつ

【教育の充実について】

先日、教育委員会と意見交換をいたしました。

不登校の児童がどの位いるのかという話の中で、統計的に数字であがっている不登校児童のうち、多くの児童が学校に行きたくなくて不登校になっているのではなく、親の不規則な生活に巻き込まれ、親の都合や親の無責任のため不登校となっているという実態を聞きました。

教育関連の外部アドバイザー導入の件につきましても、春日市ではまだ必要ないと思われませんが、全国的には新聞報道等でもありますように、給食費の未納や、保護者の学校に対する非常識な言動が目につけてまいります。

春日市でも1%程度、給食費の未納者がいます。この給食費や保育料の未納者のうち、生活に困窮している方は一部であり、支払う能力がありながら、親のエゴで滞納しているケースが多く見受けられます。

これらの案件につきましては教育委員会が所管となりますので、市長部局から細かい指示を出すことはできませんが、このような状況を改善していくために、本日いただきました貴重なご意見を今後の参考とさせていただきます。

【高齢者・障害者支援について】

障害者自立支援法が施行され、障害者が各種サービスを受ける際に1割負担を求められることになりました。障害者にとっては非常に厳しいものであり、様々なご意見やご指摘をいただいています。

春日市ではそのような声を聞かせていただき、関係者の皆さんと協議しながら減免措置をとっているところであります。引き続き、関係者の皆さんのご意見を参考に対応してまいります。

高齢者、要支援者の安否確認につきましては、春日市も緊急通報システムを持っていますが周知が難しい点もあります。

地域の皆さんが、一人暮らしの高齢者ということで心配して声をかけても、人との関係は煩雑であり一人でゆっくりしたいということから、干渉しないでほしいとおしかりを受けるケースもあるようです。

また、地域の要支援者の情報収集につきましては、目的を定めご本人の了解をいただければ、要支援者名簿等を作成しても差し支えないのですが、これらの情報が別の形で悪用されたり、商業用に利用されたりしていることが問題となっています。

高齢者支援について、人と人との関わりを避ける大人が増えてきている傾向にあり、地域の要支援者の把握も難しくなっています。しかしながら、発表の中にもありましたように、干渉されることを好まない高齢者も顔見知りの方から声をかけられると、安心して応じていただいているということでもありますので、このような地域の人達が信頼関係のうえで支えあっている環境を作り上げていきたいと考えます。

【子育て支援】

保護者、大人がもう少し考えていただかないとならない時代になってきたようです。

地域の出前トークでいただいたご意見ではありますが、保護者が育成会やPTAの役員を引き受けたくないために、会を脱退したり加入を拒否されているようです。

また、自分は忙しいから地域で自分の子どもを見守ってほしいといわれる方もあります。

桜ヶ丘地区では子どもさんがいなくても、地域の組織として育成会に加入できるようです。こういった先進的な取り組みをモデルとすることもできますので、資料等が必要であれば、会員の皆さんのお手元にお届けいたします。

第 22 回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成 20 年 1 月 22 日（木）
- 2 時 間 19：00～21：00
- 3 会 場 春日市役所 大会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員 13 名
春日市長、行政管理室長、行政管理課長、行政管理担当係長、
事務局（行政管理担当）
〔欠席〕梅原 宰、江口 泰子、大石 昭子、大野 信孝、片島 常雄、
川田 絵美、古賀 敬之、篠原 比呂志、白水 房子、福富 幹男、古川 秀
樹、水野 多津世、森山 善彦、横山 信美、吉弘 幸三、渡辺 昌代

5 会議の内容

- (1) 会長あいさつ
- (2) 市長あいさつ
- (3) グループ討議（ワークショップ）

もっと住みやすいまちにするために

1 月のテーマ『住んでみたいまちにするために』

1 班 春日市の将来都市像

2 班 環境との共生

3 班 協働

- (4) 討議内容発表（発表順に記載）

1 班 班 員 上野 直麻子（発表）、塚本 幸弘、松尾 征也

春日市の将来都市像

春日市には、歴史がある、水が不足しないなど、多くの魅力がありますが、それらの魅力が、広く市内外の人たちへ伝わっていないのではないかと感じます。

春日市の魅力である遺跡を保存したまちづくりを進めていくと、荒んだまちになることはないと思います。

私は、春日市は福祉がとても良いというイメージがあり、昭和 49 年に移り住んでまいりました。

このように、春日市にはこういった良いところがあるから住み続けたい、移り住んでみたいと個人個人が思えるような、魅力の発信が行えればと考えます。

また、春日市はサラリーマンが多いということで人口の移動が多く、5 年間で市内の総人口相当の数の人たちが転出入していますが、このように入れ替わりが多いということは、新しい風が吹くということで、良い方向にとらえていきたいと思います。

また、学校の先生たちが春日市の小中学校で働きたい（教えたい）と思えるような努力をしていただきたい。

これは教育委員会のことになるので、市長が直接指示できることではないと思いますが、小中学生の保護者はこういう考えを持っているのではないのでしょうか。

良い先生には高い給料を支払い、また、良い先生に来ていただくために良い校長先生

を配置できればと考えます。

春日市が日本で一番すばらしいのは何かと考えると、11万人の市民に対して、市職員の人数が少ないことがあげられます。

これは市役所の職員の方がそれだけ努力していただいているからだと思います。

また、市長が『出前トーク』や『市民懇話会』を通して、直接市民の声を聞かれることもすばらしいことです。

他市町村と比較する必要はありませんので、春日市がしっかり良い方向に向かっていくため、地区や各家庭、行政が様々な良い事例を参考にしていけばよいのではないのでしょうか。

『三人寄れば文殊の智恵』ではありませんが、市民の英知を結集し春日市が全国で一番住みやすいまちになればと思います。

2班 班員 山田 恵美（発表）、伊藤 智幸、中村 一登

環境との共生

環境問題というのは、昨年ゴアさんの映画『不都合な真実』にもありましたように、大きな問題で、世界的に色々なことが起こっているが、何をしたらいいのかよくわからない。漠然としているというのが多くの市民の思いではないのでしょうか。

まず身近なことで、家庭でできることがどういうことなのかをみんなにお知らせしていったらいいのではないかと考えました。

している人はすごくしている。していない人は全くしていないということなので、身近で、こんなことをしたら環境にやさしいという実践例を春日市のホームページなどで紹介してみてもどうだろうかという意見も出ましたが、ホームページを見て、「こんな当たり前だ」という人もいれば、「へえ、こんなこともできるんだ」という人もおられるので、何を載せるのかという難しい問題があるようです。

具体的に各家庭でどういうことをされているか、事例として私が一生懸命、家庭で取り組んでいるものを、RKBの『共感テレビ』という番組に10分ほど出させていただき、こんなことをしたら環境にやさしいよということを紹介させていただきました。

ここでその一部を紹介させていただきます。

廃油石鹸を作って、石鹸はほとんどそれを使っています。

トイレの水は、風呂の残り湯を使って洗濯しすすいだ後のものを使っています。

現在、2ヶ月の水道代は5,000円くらいで過ごせるようになりました。

これをどのようにチラシに表現するか難しいことですが、実践している人が広げること、うちでもやってみようかなと小さなことが積み重なって、環境が良くなるのではないのでしょうか。

地域や団体としての取り組みは、春日市では春と秋にクリーン作戦で自分の住んでいる地域を清掃したり、子ども達のエコクラブというのがあり、環境活動をしています。

また、日の出小学校では、毎週金曜日にクリーン作戦を実施しており、子ども達が登校してくる途中でごみを拾ってきて、学校でまとめて捨てるという取り組みも行われており、このような活動が春日市全体に広がればと思います。

春日市の環境ということで、ため池の資料も準備いたしました。

たくさんのため池が市内にありますが、今のところ、なかなか活用されていないようです。活用されていないためにごみ捨て場になっているのではないかという意見が出ていました。昔のようにボート遊びなどができればいいなと思います。

全体のまとめとして、環境にやさしい取り組みは、わかっているけどなかなかできないものでありますが、生活の中から、家庭の中から少しずつやっていくことが『環境と共生していく』ということではないだろうかとの結論に達しました。

3班 班員 堀ノ内 陽子（発表）、川畑 純子、長野 須美子、
西村 康子、三室 日朗、宮崎 明、森 俊子

協働

どうしたら人と協働しようという気になるか、という話になりました。

今、人との関わり『縁』が無くなってきているから協力や、協働が薄くなってきているのではないかと考えます。

また、あまりにも元気すぎて健康だから、一人でも生きていけるから、とりあえずは食べていけるから、コンビニがあるから、便利になっているからということで、人に頼らなくても生きていける状態であるから、協力とか協働が無いのではないかと。

困った時に、そのとき初めて人は動くと思います。自分の身に何か降りかかった時、誰かに助けを求めたり、行政に相談に行くなど、人と関わる動きをするのだと思う。

小さい頃から、人と協力しあうとか、人を助ける、人から助けをもらうという動きを共同作業などの経験を通して、心を養っていくことが大事なのではないかというところに行き着きました。

それでは、どうすれば良いのか。

結局、便利すぎるから人に頼らない。色々課題はあるにしても、あまりにも春日市が便利すぎなのではないか。

不便がなくなり、ごみも落ちていない。それは誰かがしてくれているから。

しかし、ごみが落ちていればどうするか。誰かが拾おうとする。それを見かけた人が手伝おうという動きをする。そこで協力しあうのではないかと。

昭和初期の不便な時代、どうだったか。お醤油を借りにいたり、みんなで清掃したり、人の縁が大事にされていた。

それならば便利さを無くそう。不便にしたなら人は人と共に協力しあうのではないかとという話になりました。

不便さをあえて作ってみてはどうか。昭和初期の経験を作ってみてはどうか。

昭和初期の経験を子どもにさせてみたい。子どもが動けば共に親が動くだろうと思います。

子どもにメリットがあることと親が感じれば、親もそこについてきます。若い世代の親にも、子どもを通して人との関わり、そして関わることによって協力とか協働にならないかと考えます。

行政に土地を提供していただければ、何らかの動きができるのではないかと。何らかの

動きは市民が主体となって実施することで、自助、共助、公助につながるのではないでしょう。

(5) 市長あいさつ

本日も熱心に討議していただき、貴重なご意見をありがとうございます。

これらの貴重なご意見は毎回取りまとめていただき、行政への提案としていただければと思います。

【春日市の将来都市像について】

春日市は奴国の時代からの歴史があり、水も少々の湯水では制限給水をしなくてもよいくらい恵まれた環境であります。

これは春日市の魅力でもあり、春日市が住みよいという一つの大きな要因になっているのではないかと思います。

遺跡の活用をもっとやってみては、とのご指摘をいただきました。

春日市では健康課と文化財課が協力いたしまして、春日市の史跡めぐりをやっております。また、弥生時代、交流があったであろう、奴国の春日市、伊都国の前原市、不弥国の宇美町を実際に歩き、その遺跡や遺物を再認識してもらう「魏志倭人伝の国々を歩く」という事業も実施いたしました。

財政的にも厳しい状況にありますが、市として何ができるのか見直していこうと考えます。

次に、春日市の転出入の多さと教育についてであります。春日市の年間の異動者数は、18,000人程度であり、そのうち転出者が約8,500人、転入者が約9,500人です。

このように人の動きが激しいまちで、6年間で春日市の人口に匹敵する数の異動が起きているのも事実です。

春日市に移って来られる若いお父さん、お母さんの多くは、春日市の教育が良いということとを理由に、春日市を住居地に選ばれているようです。

教育長から聞くところによりますと、全国共通テストでも市内の全ての学校が平均点以上の成績をおさめているのは、県内唯一のようです。

春日市は教育環境に恵まれており、先生方も春日市に来たいという要望が非常に強いということをお聞きしております。

教育に関する具体的な取り組みといたしましては、教育環境にゆとりを持たせようということで、今年から市内小学校6年生のクラスを30人以下の少人数学級にしてまいります。

教職員の給料の問題につきましては、申し訳ありませんが公務員でありますので、対応することができません。

また、人口に対する職員数が全国一少ないことも事実です。全国の10万人規模の都市であれば、職員数は平均して760人程度ですが、春日市は約420人です。

男女共同参画につきましては、春日市もユニークな取り組みを行っており、先般ここで、大野城まどかびあ男女平等推進センター所長の林田スマさんに講演していただいたり、あすばるフェスタで寸劇やミュージカルをしています。

【環境との共生について】

様々な取り組みをお聞かせいただきました。

水道料金も当初 15,000 円支払ってあったのが、様々な工夫を実践することで 5,000 円にまで減額されたとのことであります。非常にすばらしいことを実践されており関心いたしました。

身近なところからエコの取り組みを始めていこうということで話し合われていましたが、このようなことを一人一人が意識していただけるとありがたいのですが、市民の皆さんの中にもエコ活動について、積極的に取り組まれている方と無関心の方、両極端であり、これを浸透させていくのは頭の痛い問題であります。

次に、ため池の活用につきまして、日本では春日市だけと思いますが、春日市は住みやすいということで、乱開発が行われるおそれが出てきました。この乱開発の防止という観点から、「春日市溜池保全条例」ができました。

公共用地として、春日市は学校を作るスペースを確保するのが困難でありますので、一昨年、白水小学校建設にあたりまして、整理池を埋め立てさせていただきました。

発表にもありましたが、ため池はごみ捨て場になっているケースもありますので、これからは、市の所有ではなく、地区の財産組合の持ちものである全てのため池を保存できるのか、行政がどこまで権限を行使できるのか、非常に難しい問題であります。

保存していくため池と、ある程度活用していくため池が必要なのではないかと意見も出ています。これからは、そこを見極めていくことも必要になってくると考えます。

また、環境問題でエコクラブの話がありましたが、昨年、エコクラブの子どもさんの提案で福岡市が取り組んでいます緑のカーテン事業は、あさがおなどで庁舎窓に緑のカーテンをし、温度の上昇を 2℃くらい抑えることができたということです。

これを参考に、今年の夏から、小学校と市役所でモデル的に緑のカーテン事業を予定しており、市民の皆さんの目に触れる形で、行政も環境問題に取り組んでいき、啓発につながるよう努力していきたいと考えます。

【協働について】

市民の皆さんの地域とのかかわりが非常に薄くなってきたと、私自身も感じます。

スポーツやボーイスカウトなど、子ども達の活動を支援していただいている保護者の方々の絆は、非常に強く感じます。

しかし、これがなかなか地域で反映されないという実態もあります。こういった活動をどうすれば地域に活かしていけるのか、これが今の一番大きな課題なのかという気がします。

また、便利であるが故に春日市に移ってこられた方も多くおられます。

公共下水道は 100%完備しており、断水の心配もなく、市内端から端まで 3km 前後で非常に効率の良いまちであります。

かつて、中学校給食の導入を検討していた時期、若いお母さん達の団体が、これを実現できないのであれば、福岡市に転居しますと申されました。

地域のことを考えながら、みんなで乗り切っていくことで絆ができ、地域とのかかわりも深まっていきます。このようなことで、本当に地域が安心して暮らせる社会になるんだということを理解していただける方が非常に減ってきているのも事実です。

白水小学校建設時にも周辺のマンションの方から、建設反対の横断幕を張られました。

代表者の方と何度かお話しいたしました。反対の皆さんは、今まで福岡市に住んでいて、定年後、人と人の関わりが煩わしくなってきたため、自分達だけで誰とも関わらずに生活するために、春日市のこの地に移ってきたと話されました。横に学校を建てられると、子ども達が騒々しく、安心して生活できないという考えをお持ちでした。また、自分の子どもが通う学校なのに反対される保護者の方もおられ、対応に頭を痛めてまいりました。

今、このような時代になってきているようです。

行政が指導していくことも大事ですが、市民懇話会等の中から、市民が市民の皆さんに対し「こうあるべきですよ」と言っていただくことが、一番効果がでてくるのではないかと考えています。

今日、皆さんにいただいたご意見を大切にさせていただきながら、これからのまちづくりに活かしていただきたいと思っています。

また、今日いただいたご意見は、取りまとめて、将来の提案にさせていただきますよう、お願いいたします。

第 23 回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成 20 年 3 月 25 日 (火)
- 2 時 間 19 : 00 ~ 21 : 15
- 3 会 場 春日市役所 大会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員 15 名
春日市長、行政管理室長、行政管理課長、行政管理担当係長、
事務局 (行政管理担当)

〔欠席〕伊藤 智幸、梅原 宰、江口 泰子、大野 信孝、片島 常雄、
川田 絵美、白水 房子、古川 秀樹、堀ノ内 陽子、水野 多津世、宮崎
明、横山 信美、吉弘 幸三、渡辺 昌代

5 会議の内容

(1) 会長あいさつ

(2) 男女共同参画講演会に参加して (発表 : 古賀 敬之)

2 月 5 日、市の主催で中嶋玲子先生のお話しがございました。

参加してまいりましたので、その感想を申し上げます。

中嶋先生は若い時から、女性として生きてきた足跡というものをつぶさに語られた訳であります。

実にこと細かく、現在までのお話しが非常に元気に語られました。

内容につきましては、参画社会の今後のあり方について投げかけられた話しでありました。先生は若い時から、い草の取れる所で非常にきつい農家の仕事をされてあり、あの体格を見ただけで私はそれに感付いておりました。相当の苦勞をなさっておられるなど、先生は男にも負けはしませんよという体でございました。

議員、首長を経て、現在あすばるの館長であります。足跡は、女性の力というものが、何ら男性に劣るところはございませんよと自分で示されたような気がしました。

現在、法律だとか条例が制定されることで参画型社会が完全に出来上がった、ということがありますが、実はまだ一步も進んでいないのではないかと、ということ投げかけられたと思います。条例というものは文章であって、非常に細かく検討はされているものの実際の生活の中でどれだけの力を発揮しているのかということです。

実体験に基づき、女性の立場、結婚、給料、生活上のことなど、平等の社会にふさわしい世の中にはまだまだ遠いということでもあります。

私は、法律に実にきれいな言葉でこうあるべきだということが明記されているが、それを実際に応用することができていないのではないかと気がいたしました。

皆さんも、その立場立場で十分にご理解されていることですが、平等だとか人権というものは非常に難しいものであります。

私も非常に恥ずかしいことではありますが、調理場にあまり入ったことがない人間であります。そういう教育を受けてきました。

最近では当然のように男性も調理場を知らねばならない。料理するのも当たり前ではないかということで、いささか私も動転いたしました。しかしながら、私のような考えは古い考え

で、古い社会のことであって、今はかなりの分野で男性と女性が互いに協力しあい家事や仕事をし、そこに助け合いとか支えあいというようなことが出来つつあるようです。

また、話の中でありましたが、実際に男と女というものは違っているということも事実であります。それを支えあい、助け合い、男女同権の立場を守るといふことの難しさを感じました。

(3) 市長あいさつ

(4) グループ討議（ワークショップ）

もっと住みやすいまちにするために

3月のテーマ『住みやすくするためのモラル・ルールづくり』

1班 人間関係の構築

2班 地域社会の構築

3班 防犯防災体制の充実

(5) 討議内容発表（発表順に記載）

3班 班員 山田 恵美（発表）、古賀 敬之、松尾 征也、森山 善彦

防犯防災体制の充実

なかなか難しい議題でありましたので、うまくまとまりませんでした。

まず、防犯についてであります。ついで隊や青パト、自治会によるパトロールなどが行われているという話です。

しかし他人事という感じで、自分のこととしてとらえないでいるため、一人ひとりの意識とするのが、まず第一ではないかと思えます。

事例として、近所で空き巣の被害が多く発生していたが、その当時、周囲は空き地が多く、高齢者ばかりであった。その後、空き地に若い世代が引っ越してきたことで、地域に子どもが増え、昼間に子ども達が遊んでいることで空き巣の被害が無くなったという地域もあるようです。

同じ世代であれば、活動する時間帯が決まってしまうが、色んな世代の人が住むことで、まち自体も活性化したり、防犯の役を担ったりすることがあるのではないのでしょうか。

反面、他の世代が入ってくることで子どもの声がうるさいとか、夜遅くまで騒いでいるとか、一人ひとりの理解が得られないこともあったようです。

次に不法駐車の問題ですが、これは昔からあることで今だにどうしようもなくあちこちであっているようで、この不法駐車の影響で救急車や消防車が入れなくてとても困った事態が起きていることもあるようです。

地震、水害等の防災につきましては、3年前の西方沖地震の時は、各地域の住民同士の連帯感が高まり、防災への関心も非常に高いものでありましたが、さすがに3年間経過すると連帯感や防災の意識も薄れてきたのではないかなという話も出ていました。

最後に、全体的に春と秋にクリーン作戦があるように、例えば3月か4月の地震があった時期に、春日市全市を上げてのデモンストレーションとしての防災の日のようなものを毎年一回設けることで、各地域の特性にあわせ災害訓練を実施し、一人ひとりの意識付けを高めていくことができるのではないかというまとめになりました。

2班 班員 福富 幹男（発表）、川畑 純子、長野 須美子、
三室 日朗、篠原 比呂志、上野 直麻子

地域社会の構築

日常の生活で春日市を良くしようという中で、市への要望や疑問、苦情をどこに言えば良いのか、市では国、県の取り組みであっても相談いただけるということでありました。

例として、保健所の所在地を尋ねるにはどこに問い合わせるのかということについても、市に聞けば教えていただけるということでもあります。

高齢者支援の活動で推進していくためにはどうすれば良いのか。

この問題になるといつも、何歳の誰が、どのような状況で、どこに住んでいるのか把握できないということで、個人情報の問題につながってきますが、それがためになかなか推進できないという結果になります。

それでは個人情報保護に抵触しないようにするにはどうすれば良いのか。

一つは向こう三軒両隣の範囲内で、そういう情報をきちんとつかむべきで、高齢者の情報を行政情報とは違った形で、近所の住民同士が周知できる体制を作ることが大事です。

地域の組制度は現状のままでいいのか。実際の活動や生活の状況にあわせ見直してみてもどうか。

この向こう三軒両隣の延長線上に、自治会、公民館活動の見直しも必要になってくるのではないのでしょうか。

子ども会、青年会で自主的に餅つき大会などを企画、実施することで、地域のつながりも深まっていくのではないのでしょうか。

自治会活動も、高齢者対策も、地域のかかわり方も、災害時の助け合いも向こう三軒両隣の活動が基本になるのではないのでしょうか。

1班 班員 森 俊子（発表）、中村 一登、西村 康子、大石 昭子、
塚本 幸弘

人間関係の構築

まずは、身近なことから話し合いました。

今現在、子どもの遊びの中でも、多くの人とのつながりが薄れてきており、このような状況は社会人についても、上司からの指示に対して、私はパートだから、アルバイトだからということで断って、上を望まない状況にあるようです。

また、あいさつもできておらず、基本的な「ありがとう」や「ごめんなさい」「ごちそうさま」など当たり前のことができない子どもが増えてきています。これは親の責任でもあります。

また、多くの人たちに協調性がなくなっているように感じます。

小さい時に家庭内でのしつけが不足しているのではないのでしょうか。

昔は兄弟が多かったために、日常生活の中で身に付いてきた助け合う気持ちやたくましさなどが欠けてきているのではないのでしょうか。

2班でも出ておりましたが、地域での取り組みも重要であります。現在、地域でがんばっておられる方は高齢の方が多いので、その中で若い人の力も借りながら協力しあうのが必要だと思います。

(6) 市長あいさつ

本日も熱心に討議していただき、貴重なご意見をありがとうございます。

「人間関係の構築」「地域社会の構築」「防犯防災体制の充実」ということで話し合っていたいただきましたが、最終的に人間関係の信頼をいかに構築していくかということに集約されるような気がしました。

防犯防災体制も非常に重要なことでありまして、今まで春日市では最初に全体的な防災訓練を実施いたしました。それと同時にこういう訓練というものは大きなものも大事であります、それぞれの地域の自主防災組織で訓練をやっていただいています。ある程度下地が整ってまいりましたので、中学校区ごとに訓練を実施し、昨年、全地区を終了したところであります。

これからは、それぞれの自主防災組織でやっていただくのは当然でありますので、それと同時に地域での防災のリーダーを育成できないかということも考えており、今後、こういうことに力を入れていきたいと内部で協議しているところであります。

ご指摘いただきましたようにデモンストレーション的に、年に1、2回、全市的に訓練することも必要かなと考えております。本日の意見を十分踏まえまして、どういう形でやっていくのが良いのか、確認してまいります。

地域社会の構築についてであります。

様々な行政に対する苦情の連絡先につきましては、国、県のことでありましても、市にご連絡いただければ適切に対応してまいるよう、職員に指導しているところです。

また、向こう三軒両隣を構築していくことが基本になるのではというご意見であります。

確かにそうであろうと私も思います。

しかしながら困るのは、春日市に移り住んできた理由として、人間関係が煩雑であってその煩わしさから逃れるために春日市のマンションに移ってきたという人も結構おられるようです。

自治会の役員が回られたり、災害直後に声かけされたりすることを拒否される方がいることも事実であります。この辺が非常に難しいところであります。

現在、自治会の見直しをしておりますが、個別に出していた補助金を総合的に支出し、地区の役員の方の手当てを増やすようなモデルを作って、地域の特性にあわせ予算配分してよいのではないかと考えており、平成20年度中に結論を出していただく予定であり、それを21年度から実施する予定であります。

これからは、お金の流れが全部見えてまいりますので、お金を地域で有効に活用していただけるよう十分に協議を続けているところであります。

また、文部科学省などは、なぜ家庭教育のあり方や親御さんに対する指導がなされないのか考えておりましたが、これは不文律があるようで、家庭にまで踏み込めない部分があるようです。

しかし、春日市は今の教育長になられて、子育てアップチャレンジプランという小学校3年生を対象に保護者に対し、様々なアンケートを取っています。そのアンケートを基に学校側から家庭に踏み込んで指導をされており、効果を上げてきているようです。

是非、こういうことを皆さんに報告していければと考えております。

本日は非常にとりまとめが難しい課題であったかと思いますが、今日の意見をまとめまして今後の市政運営に役立ててまいりたいと思います。

第 24 回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成 20 年 5 月 21 日（火）
- 2 時 間 19：00～21：15
- 3 会 場 春日市役所 大会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員 17 名
春日市長、教育長、総務部長、行政管理課長、行政管理担当係長、
事務局（行政管理担当）
〔欠席〕大野 信孝、古川 秀樹、水野 多津世、梅原 幸、片島 常雄、
白水 房子、吉弘 幸三、伊藤 智幸、江口 泰子、川田 絵美、
横山 信美、渡辺 昌代

5 会議の内容

- (1) 会長あいさつ
- (2) 市長あいさつ
- (3) 講話：春日市教育行政のユニークな取り組みについて（春日市教育長 山本直俊）

春日市の教育行政は、井上市長が議会の中で述べられた施政方針、その一貫性を貫くということをもまず一番に置きました。2 番目は、子どもをしっかりと育てるには学校の力、地域の力、家庭の力の 3 つの力を向上させるということをも 2 点目の眼目に置きました。それから 3 つ目は、従来教育行政はまちづくりに対する意識が弱かったように感じます。まさに教育行政というものはまちづくりである、ひとづくりはまちづくりであるというその眼目を、3 つの柱を置きました。

本日、EDUCATION KASUGA という一枚の 2 色刷りのリーフレットをお配りしていますが、私が教育長に就任した 1 年目は春日市の教育要覧という分厚いものがありました。この要覧は春日市にお客様が来られたり、欲しい方が来られたときに配っていました。そこには、井上市長の方針の中に、まず市民を真ん中に、しかも行政の情報は市民の方に絶えず発信しながら共有化しようという柱がありました。しかし教育行政については、教育情報の多くの市民への発信の在り方について課題を感じていました。そこで、できるだけ多くの人に配られるように、その厚さのスリム化に努めてまいりました。それでも、まだまだ全保護者に行渡らない。そこで、もっと保護者の方、地域の方にわかりやすいものを作ろうということでこの 1 枚刷りにしたものです。これは、春日市の教育行政がどんなことをしているかを市民のすべての方にわかりやすく整理し、構造化したものです。本年度は小中学校の全保護者に配布いたしました。保護者の方の声を聞くと、これだけのことをしていただいている、ということで元気がでたという声もお聞きしております。やはり教育行政も春日市がやっていることを発信して市民の多くの皆様と共有化を図りたいというのが一つの取組でございます。

それから市長は、市長出前トークを行われ、町づくりに大きな成果を上げられています。この発想や取組に学び、教育長トークを行っています。教育委員会というのは管理職とは距離が近いのですが、一般の先生方との距離が心理的に遠い。遠いがために、取組や意識が教育委員会と一般の先生方との一体感が出ない。これでは、本当には実をあげることはできないということで、毎年一般の教職員と教育長トークをやっております。ちょうど今年で 3 年目が終わろうとしてい

ます。これは非常に効果がありました。学校が空いた時間で行いますので、学校には負担はかかりません。これをやると先生方は言いたいことを言われます。それに真摯に耳を傾けながら、教育委員会も教職員に言いたいことを言います。そのことによって、お互いの一体感が非常に出てまいりました。おそらく全国的にもこのようなトークをしているところは無いだらうと思っております。これからも続けていこうと思えます。

それから3番目の先進的な取組として書いております、コミュニティスクール地域運営学校ですが、本年度から全小学校が地域運営学校となります。コミュニティスクールは福岡県では、春日市を除くと4校ぐらいあります。非常に少ないですが、全国的には、約220校です。おそらく今後も増えていくだろうと思われまます。これをやってよかったと思えます。まさに「コミュニティスクールはまちづくりである」ということは日の出町地区の方も言われておりますが、まちづくりと、地域の教育力と、家庭の教育力と、学校の教育力が上がってきております。ある地域運営学校では、学力がものすごくアップしました。また、このようなこともありました。夏休みに地域の方が、校長室にお見えになって、実は、買物で高齢者の方がマーケットでワゴン車でひっくり返されたそうです。それに気づいた子どもが、すぐに拾ってくれたということでした。その子は地域運営学校の子どもでしたが、その子どものことで、こんなことをしたということでお礼に校長室に来られ、是非褒めていただきたいと言って帰られたそうです。このように地域が支える学校作りがコミュニティスクールでございます。

それから市長が冒頭の挨拶の中で触れました、子育てアップチャレンジプランですが、全国PTA連合会がやっているのは、基本的な生活習慣定着のための取組です。本市の場合は、ちょっと違いまして、親の育てる力と子供の自立の力を育てるためのメニューを用意しまして、それぞれの家庭が親子でメニューを選択してやっていただいています。ところが家庭の教育に教育行政が入り込む場合は強制力がありません。電話がありました。「これは強制するとか」と。そしたら担当がこう答えたそうです。「強制ではありません、お勧め品でございます」と。「これをするときっと子供さんにもお父さんお母さんにもきっといいものがでできます」と答えたら、「ああそうですか。」と、それ以上おっしゃられなかったそうです。そういうことで今年も続けていきたいと思っております。

それから5つ目は全国的にも新しい取組であります30人以下学級の編成、全小学校6年生に30人以下ですから1クラスが二十何人です。そのため、市独自で先生を13人採用配置しております。とても学校現場、保護者に喜ばれ、大きな効果を上げております。まだまだ、取組んだばかりですが、よりきめ細かな指導が進んでいくと考えています。今後、時間をかけて検証していくこととなります。

それから6番目のアンビシャス広場ですが、これは子どもの居場所作りでございます。子どもがそこで運動をしたり、何か活動をしたりする広場です。春日市には全中学校区にあります。全中学校区にアンビシャス広場があるというのは福岡県内、どこにもありません。県内のアンビシャス広場は約48会場ですが、約3分の2を春日市がやっております。去年は麻生知事が、春日市がアンビシャス広場で非常にモデルになっているものですから視察にお見えになりました。非常に県も注目しております。それから子育てアップチャレンジプランについては、中央教育審議会の審議委員さんが福岡県から出ていますので、そこでも少し取組が話題にあがったそうです。先日も国の方から連絡がありまして、事例を発表して頂けないだろうかという依頼がありました。

また、先週の日曜日にも全国生涯学習関連の大会で課長補佐が発表しまして、その際、文部省から出向している、ある県の担当の方が非常に関心を持たれて話に来られたと、聞いています。ただ子育てアップチャレンジプランは、今度改正になった教育基本法には家庭教育は教育の原点であるということで、第一義的には家庭が責任を持たなければいけないということが書いてありまして、それには行政が積極的に指導するというようなことが書いておりません。支援という形が書いてありますので非常に難しいのですが、なんとか春日市で成果を根付かせていきたいと思っております。

最後に7番目ですが、学校力を高めるゆとりある職場環境の創造。実はゆとりある職場環境というのは、中央教育審議会が最近出したのですが、先生方が子供と向き合う時間を十分とるようにしようということでした。その前に春日市がちょっと欲張りまして、周りの方から批判が出ないだろうかと心配しながら、このゆとりある職場環境のことを福岡県の教育福岡という雑誌に掲載しました。そのあと中央教育審議会も出しまして、国もこういう考えを持っているのかと。やはり学校現場にゆとりある教育環境をつくりながら先生と子供がしっかり向き合える時間を確保することは一番大事だということを思っておりましたので非常によかったと喜んでおります。現在、モデル校を小学校に1校、中学校1校置いて、その取組を始めております。教育委員会に提出する文書をスリム化したり、学校訪問の在り方を見直したりということで先生方が、しっかりした授業の準備ができる時間とかあるいは子どもと向き合える時間を確保できるように工夫、改善していただいております。これも徐々に成果が上がってくればいいかなと思っております。

今後とも、皆さん方のお力、ご支援を頂きたいと思っております。最後に、皆様方には、市民懇話会でまちづくりのため、昼間のお仕事のお忙しい中を割きながらこういう時間に集まっただけ、春日市のことを思いながら、いろいろご提言していただいておりますことに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

(4) グループ討議

もっと住みやすいまちにするために

5月のテーマ『春日市の強み・弱みについて』

(5) 討議内容発表（発表順に記載）

1班 班員 三室 日朗（発表）、古賀 敬之、堀ノ内 陽子、宮崎 明、
森 俊子

皆さんの意見はバラバラでしたけど、強み＝弱みというのが出てきました。

春日市は暮らしやすいため、若い人、転勤族が多くて若い世代の集う町だということ、また、歴史の教科書にも出てきますように、春日市は弥生時代からすでに大きなクニとして存在していたというような土地柄であるということが地域の特性です。

市長トークで地域の声が市政に届きやすい、このような市民懇話会に参加される方が多いということや、やよいバスができたことが良いことだけでも、そのやよいバスがちょっと利用面で不便があり、もうすこし改善の余地があるということです。

それから窓口の職員の対応がよかったという方がいる反面、非常に悪いという方もおり、もう少し行政の窓口が勉強するところかなあという思いです。

ボランティア活動の良さとかインフラがよく整備されている、水に恵まれている、これは多分水道のことだろうと思います。

また住環境がよくて、水、緑が多いと書いてますが、緑が少ないという意見も出てきています。地区によっては高層マンション化されてしまって緑も見られないという地区もあるみたいです。

それから学校が多い、教育長トークが良かったという意見もあります。教育に関してはあまりマイナスな面はありません。それから子供たちから挨拶がよくきかれる、挨拶運動がみんなに知れ渡ったんだろうと思います。小学生だけではなく恥ずかしがりやの中学生からもおはようございますという声が聞かれるようになりました。

弱みは、まだ災害が起こったときに救急車が入れないような、もともと村から町になったために昔からの土地柄のところは車が入りにくくて災害のときには何か起こるのではないだろうかということ、交通渋滞が多い箇所が何箇所もある、駅までの交通アクセスが無いというようなことで、良い点＝悪い点、悪い点＝良い点ということが結論として出ました。

2班 班員 山田 恵美（発表）、福富 幹男、西村 康子、松尾 征也、
森山 善彦、上野 直麻子

良い面と悪い面が相對するところが見受けられました。

いいところは皆さん分かっているだろうから、なるべくここは、ということをとくさん書くように心がけたので、悪いほうが多くなっているということをもと最初にお断りしておきます。なので悪い点を中心に話します。

施設について、いい点と悪い点がありますけれども、公共施設、福祉施設が多いことがいい点で挙げられています。しかし、スポーツ施設の一部が使い勝手が悪い、古いということで、小さな施設がこんなところにあるというのはすごくいいことなのですが、バリアフリーだとか天井の高さとかエアコンとか色々な施設が中途半端なので、大きな大会を呼んだりするときに使い勝手が悪かったり、使う人たちの意見をもっと聞いて作っていただいたほうが、広さとかラインとかを改善できるのではないかと、という意見がでました。

防災防犯について、いい点では、防犯活動が活発だということで地域のパトロール等あるのですが、地域の方たちの活動は活発なように思えるのですが、派出所がまだ不足しており、電話をすると忙しそうに対応されることが多いというのが不満な点でありました。

自治会についても地域でいろいろ活動しているところはあるのですが、結構ばらつきがあったり、転勤族が多いので自分の意識が足りなかったり、なかなか団体の役を引き受けてくれなかったりということが不満な点であっております。

そして自然環境の点で、春日市を全国、東アジアへアピールすべきだという意見がでました。今現在、春日市はベッドタウンで人口も増えて発展してきていますが、それが頭打ちにきた時点で観光の面をもっとアピールして、ほかのところから春日市にきた人たちが色々な遺跡や施設を見て回るのに、ちょっとした看板や説明がとくさんあるともっとアピールできるのではないかと思います。

あと自衛隊や九大といった大きな教育施設があるので、もっと活用していけるといいのではないかと、という意見や市町村との広域運営を、ということで、スポーツ施設について、もうちょっと活用できればいいのではないかとという意見と、平成 20 年度の文化予算が縮小してしまったということを不満に思っているということです。アピールしていかなければという意見が出ました。

ベッドタウンとしての春日市と企業などを活用していくのがこれから必要になっていくのではないかとという意見も多く出ておりました。

3班 班員 中村 一登（発表）、川畑 純子、長野 須美子、
篠原 比呂志、大石 昭子、塚本 幸弘

大きく教育、まちづくり、環境、市民と行政、男女共同参画、というグループに分けました。

教育についてまず、子ども会、育成会の活動ということでいい部分ですが、育成会の方々が子供たちのために一生懸命企画しているのだけれども、逆にもうちょっと子供たちに企画立案をさせて子供たちに運営を任せて、子供たちに生きる力をつけさせてもいいのではないかとということがあげられました。教育の充実、これは教育も小学校も中学校も教育内容も充実していますが、より良くするために、教育ボランティアを積極的に導入することがいいのではないかと、例えば地域のお年寄りとか学校の授業に呼ぶことによって、世代間の交流も生まれますし、高齢者の生きがいが一石二鳥になるのではないかと、また大野城市もやってみたいですが、各大学とか、学校の先生を目指している大学とかに教育委員会のほうからボランティアの募集をかけたり、クラスのサポート的なものも導入しているようです。

まちづくりについては、まちづくり塾が5年目を迎え卒業生約80人居られますが、そのネットワーク化を図って、それぞれ学んだことを生かしていただければと思います。他には、市民と行政の交流があって、出前トーク等が充実しているので、市政がすこしずつわかってきたという意見がありました。地域住民の声は直接聞いてもらえてよい、福岡市から転入して懇話会に参加することで市政がよくわかることができたということです。

環境問題ですが、公共施設や色々な部分で充実はしているのですが、市民そのものが有効的な利用が行われていないということであげられています。

奴国の丘歴史資料館で人数の年間の目標を設定すれば、色々な企画が生まれるのではないかとということです。春日市の文化を見直そうということで、平田台の正行寺の宝物も市民の方に知って見ていただきたいということです。

それから男女共同参画社会女性の会をもっと活用してほしいと思います。

弱みですが、自治会行事の参加の低下、役員になったときだけ参加するということです。役員を退くと色々な行事があるのを知っておきながら見て見ぬふりをする人が多いということです。

防災訓練のあり方について、住民を巻き込んでの実施をもう少し啓発していけないかということです。市民が毎年2万人ということで、単純計算で、5年で総入れ替えということになります。新しい市民のオリエンテーションをしてみたらどうかと思います。

自治会の活発の度合いが地区によって違うので事例発表を行って水平展開を行えば、ということです。

高齢化ですが、自分ができること、市、国のレベルでやることの区別の明確化を図ればいいのではないかとということです。

いい点が、水不足無しだということですが、逆に水資源の有効活用ということも考えた市になれば、ということです。

最後にコミュニティバス「やよい」ですが、もう少し、市民の足として運行時間の拡充を図っていただければと思います。

(6) 市長あいさつ

本当に貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。

どちらかというと強みは、皆様方もご理解頂いている部分だと思います。相反する部分もあるようですが、その一つにやよいバスに不便な点があるというご意見がありました。このやよいバスの導入にあたり事前に懇話会のようなものをつくりまして、市民の皆様方でバスのあり方について検討していただきました。だいたい一人の方がどれくらいの時間にバスに乗るのか、何分まで許容できるのか、というところと最高30分であるという答えが多かったようです。バスを春日市内に5つの路線走らせていますが、このことを踏まえ1つの路線にあたり30分から40分程度が限度ではないかということに落ち着きました。できるだけこの時間で有効に網羅できるような計画を組んで頂いたわけです。しかし、現実はまだ一部の道路が狭くて、バスを通したくてもなかなか土地を道路に提供していただけない現状もあります。とくに須玖線がそうであり、徳洲会に行くほうの須玖北がほとんどバスが通っていないというのが大きなネックになっています。これについては地元の方々と協議をしていますので、どこかの時点でお願いをせざるを得ないと考えております。時間帯のお話もございましたので、もう一度バスのあり方について、また懇話会のようなものを開催してもいいのではないかという気がいたしております。6年目に入り、時々見直していかなければと思います。また、バスに乗っているのが30分から35分ぐらいが限度ということですが、もう少し伸ばせないかという意見もあります。しかしながら、いっせいに5つの路線のバスがふれあい文化センターから出発しまして同じ時間に到着するようにしています。これは次のバスに乗る待ち時間をなくすために、どう長くても5分以内にはバスが5台そろようようにしておりますので、そういうところが難しいところなので、今日頂いたご意見も含めて、そういう機会をもう一度つくらせてもらおうかとも考えております。

それから職員の対応が良かったり悪かったりと、相反している意見がありました。職員の対応についてはできるだけ、その都度気づいた点は注意しております。なにかもう少し詳しいお話を聞かせてもらえばと思いました。これは昨日、出前トークでいただいたご意見ですが、4月から職員の昼休みの時間が1時間から45分に短縮され、そうすると今までより15分早く食べて戻ってこないといけなくなりました。外に出て食べる人はどうしても時間に追われることとなります。まだ窓口に市民の方々がいらっしゃるのに昼休みになったら出て行くというのはあまり良くないのではないかと、とご指摘を頂いたところでございます。では、「どうすればよいでしょうか。」とお聞きしたところ、一言、「食事に行ってください。」と、言ってくれば良いとのことでした。しかしそれが解決になるかというのは問題がありまして、懇話会の皆様にもそのへんを詳しく聞かせてもらえたらと思います。

一つ一つ触れる時間がございませんが、スポーツ施設の問題、体育館が近い将来、5、6年の間に建て替える時期になっているのかなと思います。一番心配なのは、自然災害があったとき公共施設が避難場所にならなければならないのですが、老朽化しておりまして、耐震性がはっきりしません。大きな地震が起こったときに耐えられるかどうか、春日市内の学校にも古いものがありまして、国は再三補強しろ、建て直せと言いますが、先立つものがないので、どうしようかと頭を悩ませております。新しい学校ほど立派に造られておりませんが、体育館は特に春日市の中心にありますので、しかも天井が低くて公式のバレーボールができないという体育館でございます。11万市民にとってはなんとかしなくては、との声も聞こえてくるようになったので、考

えていきたいと思っております。利用者の声をもっと聞いてほしいということでしたので、スポーツ課と協議しながらご意見を聞かせていただく場を設けてまいりたいと思います。

また、自治会についても色々な問題があるかと思いますが、大体今年いっぱい自治会のあり方を見直すようにいたしております。来年からモデルをつくりまして、市からその地区に補助金がいくら流れてきているのか住民の方々に分かるようにしていこう、と思っております。また、役員の中でも手当てに大きく格差があるものですからこれも、少しでも是正していこうと思っております。やはり役員になって力をもっともっと発揮していただけるような、お金に代えられるものではないですが、それだけのことを手間ひまかけてやろうとすれば、いろんなものを犠牲にしなければなりません。自分でやってやろうというやる気のある方に役員についていただけるような形にしていけたらどうか、ということで今協議を行い、だいたいここ1年でその方針が出てまいります。そういう時期になりましたので、決定いたしましたら、懇話会のなかで報告してまいりたいと思います。

それから観光、遺跡等をもっと活用したらどうかということでございまして、これも貴重なご意見としまして承りたいと思います。日本を代表するような非常に考古学的に価値の高い遺跡がたくさんございますので、もっともっと市民に知っていただきたいと思っております。防災訓練のあり方についてもご指摘をいただきました。定期的に今までやってきましたが中学校区単位で一通り終わりまして、今年は少し大掛かり的に6月1日だったと思っておりますが、総合防災訓練を実施したいと思っております。少し大規模なものになると思いますが、そういったことを通して全市民に対して防災についてももっともっと意識づけをしていきたいと思っております。

大変貴重なご意見を頂きまして誠にありがとうございました。

(7) 会長あいさつ

(8) 閉会

閉会后、第3期会員に対し感謝状の贈呈式を執り行う。

模造紙での具体的な意見

1班

強み

地域の特性	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしやすいため、若い世代の人が多く ・若い人が集うまち！ ・通勤族が多く、若い世代が他地区より多い(町に活気がある) ・今までに多くの研究があり、考古学的有意性が強い。 ・弥生時代より歴史の中心にあり、教科書に出てくる「まち」として子供たちが誇れる町である
行政の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・市長トークなど地域の声が市政に届きやすい ・市長トークがよい ・市民懇話会に参加される方がおられ、多数の意見を出される ・行政職員の対応の良さ ・各団体が市民の為の動きを一生懸命行っている ・やよいバスができたことは良い事 ・防犯メールの良さ ・面積が狭いため、活動効率が良い
住環境	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラはよく整備されている ・水に恵まれている ・ゴミの分別化が良い ・住環境が良い、水や緑が多い
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の広報がみれて今の子供たちの学校の様子が少し解る ・子供たちからのあいさつが良くみられる(大人に対して) ・学校が多い ・今日知った教育長の「教育長トーク」はとても良い ・子供たちの元気なあいさつが聞かれる(学校、地域の努力の結晶) ・高齢者の見守り活動で、保護者が喜んでいる
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でのボランティアさんの活動の良さ

弱み

公共施設等	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設がバラバラで利用しにくい(高齢者がとくに！) ・交通渋滞が多い ・駅までの交通アクセスが無い ・災害時に隅々まで車が入れない、村がそのまま大きくなった地区があり、消防車が入れない所が点在する ・歩道が整備されていないところが多い ・やよいバスの利用の不便さ ・人の移動が大きい(5年間で数字的には全人口が入れ替わる) ・土地柄の考古学的有意性を更に観光(的)まで ・面積が狭いため社会資源(施設)が少ない
周知等	<ul style="list-style-type: none"> ・春日市の歴史は日本中ではすばらしい しかしまだ市民に知ってもらい市民から市外の方、県内外にも広げれば良いのではないか ・いろんな団体で活動されている人が地域で知られていないのでは… ・民生委員の教育は如何にしたらよいか(守秘義務) ・日本有数の人口密度、みどりが少ない
地域生活	<ul style="list-style-type: none"> ・独居の方の情報がない為、亡くなったり病気などされた時がどの様に対処すべきか ・自治会加入率が低い ・若い世代が自分が暮らしている地域に関わらない ・高齢者の方とのつながりをもう少し出来るようになればよいのではないか(もちろん自治会ではサロンはあっています) ・回覧板の廻りが滞る原因が色々ある
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・行政内組織の横の連携のなさ ・行政が市民の身近なお助けマンになっていない ・窓口業務の人はバタバタ動いているが課長クラス?は、のほほんとして座っている

	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の部、課の仕事についてももう少しわかりやすくなると良い、自治地区から来ても市役所の中が… 案内の方がもう少し玄関近くがよい ・市報にもっと多くの情報を 子育て部門だったら行政内だけの情報だけでなく他団体の情報も一覧にしてみるとか… ・行政職員の対応の悪さ ・教育と福祉の財政削減は未来に影響する
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・防災については市民の認識がもう少し足りないのではないかと
マナー	<ul style="list-style-type: none"> ・動物飼育のマナーは表面的行動 ・ケイタイ自殺等、既に悪い面のソフトは放置してないのか ・他人の事を気にかける気持ちは持っているが動きにつながらない

2班

強み

自然、環境	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史のまち ・まとまりのある地形 ・自然がまだ残ってる ・自然環境良し(生活環境) ・自然災害要因が少ない
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市に近い ・水、交通等、住み易い ・福岡市のベッドタウン ・水資源事情が良い(地下水) ・人口が適当 ・学童の場所がおしゃれ ・児童館がたくさんある ・交通網が発達 ・やよいバスが便利 ・風俗上良好(悪い施設がない)
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設、福祉施設が多い ・ライフラインが充実
防災、防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯活動が活発
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・老人会等の活動は大きい、長年培った経験、知恵を生かしてほしい ・春日市は全体に悪いところが少ない(市の出前トーク、市民懇話会は前向きで良い) ・バランスのとれた市政と姿勢(市長、行政) ・市長トーク、市民懇話会等、市長が市民と近い ・夜間のゴミ収集

弱み

自然、環境	<ul style="list-style-type: none"> ・田畑がなくなってきた ・刺激が少ない ・自衛隊、九大の活用(環境、防災、医療など) ・春日市を全国、全世界(とくに東アジア)へPRする ・山も林も無く春日市の特産品がない ・ゴミの分別をもっと細かく ・公園施設に他地域の出入り多く、ゴミ、犬、自動車が多い
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線開通後のまちづくり(南駅周辺) ・地域活動に各界の専門家を取り込む ・他市町村との広域運営を(例:河川管理) ・古い人と新しい人(若い人)の交流が少ない ・若い人のあいさつが足りない ・企業の活用
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設で一部使い勝手が悪い
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・派出所がまだ不足、電話をすると忙しそうに対応される
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇計画の実施後の結果がわからない

	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度の文化予算の縮小 ・春日の宝である人材を育てて頂きたい(文化、芸能、芸術) ・各部、課の協力体制はどうなっているのか ・職員の方の異動が早い
自治会	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動にバラつきがある ・自治会へ転勤族加入を推進(案:準会員制) ・区の役員選考が地つきの人、水利組合で定まってしまう ・転勤の方が多く個人主義であり、団体の役を受けない ・向こう三軒両隣システムの強化 ・転勤などで移動が多い、モラルの低下
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話の使用を見直す(小・中学校) ・学校長により発展の差がある ・青年の活動の場作り

3班

強み

教育	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会、育成会の活動 ・大人が中心の活動、子どもによる企画、立案、運営 ・教育の充実 ・教育ボランティアの積極的導入
町づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり塾(5期目)80人の卒業生のネットワーク化
市民と行政	<ul style="list-style-type: none"> ・出前トーク ・地域住民の生の声が直接聞いてもらえて良い ・市民と行政の交流があり、姿勢が少しずつわかってきた ・福岡市より転入して比較し、「懇話会」に参加する事で、市政が解る
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史遺産(奴国) ・来館者増～目標数 ・春日市の文化を見直そう ・平田台にある正行寺の雅楽所の素晴らしい事、是非市民の皆様方に見ていただきたい ・公共施設の充実 ・公共施設の有効、積極的利用 ・丸い土地の都市圏 ・文化の使い分け ・水不足なし
男女共同参画	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の会をもっと活用してほしい ・市民、文化祭、レクリエーション、男性の料理教室など ・市民と行政共に継続 ・(市民)男女共同参画

弱み

自治会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事の参加の低下 ・役員になったときだけの参加 ・自治会への未加入 ・自治会の活発度が区々により異なる ・事例発表、水平展開 ・防災訓練のあり方について ・住民を巻き込んでの実施を! ・市民が5年で総入れ替え ・新市民オリエンテーション
高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化 ・市、国の出来ることの区別
男女共同参画	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画社会の認識
やよい	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の不便さ ・コミュニティバスの運行、拡充

かすが市民懇話会 第2期会員名簿

(任期:平成17年7月1日～平成19年6月31日)

番号	名前	住所	備考
1	川口 勝介	若葉台西	市民公募会員
2	來田 富士雄	小倉東	市民公募会員 平成17年度 推進委員 平成18年度 会長
3	近藤 幸恵	惣利	市民公募会員 平成17年度 推進委員
4	多田 稔	大谷	市民公募会員 平成17年度 副会長 平成18年度 副会長
5	日比野 民代	岡本	市民公募会員
6	平田 孝	須玖北	市民公募会員
7	松崎 文夫	弥生	市民公募会員
8	森 俊子	須玖北	市民公募会員 平成17年度 推進委員
9	山田 恵美	大和町	市民公募会員
10	横山 信美	白水池	市民公募会員

かすが市民懇話会 第3期会員名簿

(任期:平成18年7月1日～平成20年6月31日)

番号	名前	住所	備考
1	大野 信孝	伯玄町	市民公募会員
2	川畑 純子	白水ヶ丘	市民公募会員 平成18年度 副会長
3	古賀 敬之	千歳町	市民公募会員
4	長野 須美子	白水ヶ丘	市民公募会員
5	福富 幹男	惣利	市民公募会員 市民懇話会第1期会員(公募会員)
6	古川 秀樹	宝町	市民公募会員 市民懇話会第1期会員(公募会員)
7	堀ノ内 陽子	上白水	市民公募会員 市民懇話会第1期会員(団体会員)
8	水野 多津世	若葉台西	市民公募会員
9	三室 日朗	須玖南	市民公募会員
10	梅原 宰	松ヶ丘	団体推薦会員 春日市老人クラブ連合会

かすが市民懇話会 第3期会員名簿

(任期:平成18年7月1日～平成20年6月31日)

番号	名前	住所	備考
11	片島 常雄	松ヶ丘	団体推薦会員 春日まちづくり支援センターみらい・かすが
12	篠原 比呂志	惣利	団体推薦会員 春日市身体障害者福祉協会
13	白水 房子	春日	団体推薦会員 JA筑紫
14	中村 一登	日の出町	団体推薦会員 平成19年度 会長 春日市子ども会育成会連絡協議会 市民懇話会第1期会員(団体会員)
15	西村 康子	小倉	団体推薦会員 春日市商工会
16	松尾 征也	一の谷	団体推薦会員 春日市文化協会
17	宮崎 明	日の出町	団体推薦会員 春日市社会福祉協議会
18	森山 善彦	大谷	団体推薦会員 春日市体育協会
19	吉弘 幸三	松ヶ丘	団体推薦会員 春日市小中学校PTA連絡協議会

かすが市民懇話会 第4期会員名簿

(任期:平成19年7月1日～平成21年6月31日)

番号	名前	住所	備考
1	伊藤 智幸	春日	市民公募会員
2	上野 直麻子	泉	市民公募会員
3	江口 泰子	下白水南	市民公募会員
4	大石 昭子	春日原北町	市民公募会員
5	川田 絵美	昇町	市民公募会員
6	塚本 幸弘	宝町	市民公募会員 平成19年度 副 会 長
7	森 俊子	須玖北	市民公募会員 市民懇話会第2期会員(公募会員)
8	山田 恵美	大和町	市民公募会員 平成19年度 副 会 長 市民懇話会第2期会員(公募会員)
9	横山 信美	白水池	市民公募会員 市民懇話会第2期会員(公募会員)
10	渡辺 昌代	白水ヶ丘	市民公募会員

